

まちづくり懇談会での意見

- 開催期間／令和5年11月27日～12月8日
- 開催回数／14回（町内各コミュニティセンターなどで開催）
- 参加者延数／109人
- 寄せられた意見・要望／228件

多い順に、公共交通 33（うちデマンドバス 12、鉄道 5）、教育 24（うちニセコ高校 15）、宿泊税 19、農業振興 10、景観・環境保全 8、ごみ 8、町内会 7、除雪 7、総合計画 6、その他 106

総合計画についての主な意見

基本目標Ⅱ みんなで助け合い、未来につなぐ

居場所づくり

【町民】第5次総合計画でも居場所づくりが大きなテーマになっていた。気軽に出かけてだれかと交流できる場所が大事。第5次にも入っていたがどこまで達成できたのだろうか。

【町民】総合計画について。居場所づくりを進めてほしい。気軽に出かけておしゃべりしたり、子どもからお年寄りまで集まれる場所がほしい。建物を作ってほしいわけではない。既存の建物を利用して、綺羅街道沿いや各地区に気軽に集まれる場所があるといい。

基本目標Ⅲ ニセコの経済を循環させる

町民価格の設定

【町民】総合計画のキーワードに「ゆっくり入れる温泉」とあるが、温泉もどんどん値上がりしている。日帰り入浴 1300 円、1500 円かかる。地元の人が入れない温泉になってきている。日本人と富裕層はかけ離れすぎている。

基本目標Ⅳ 安心・安全な暮らしやすさを高める

高齢者福祉の充実

【町民】私の周りでも、ニセコ町に住み続けたくても、医療、交通などの問題で札幌や本州に帰られた方が 10 人以上いる。総合計画では、子どもも大切だが、高齢者のことも考えてほしい。高齢者はこれからどんどん増えていく。

全体

有限な資源を踏まえた議論を

【町民】総合計画では人口の季節変動によるごみ、水、交通などの問題をベースに議論したほうがいい。こうありたいという理想だけでなく、インフラなどシビアな課題を踏まえて議論すべき。

政策案件説明での町議会議員から総合計画に対する意見

●日時／12月8日 10：00～11：00

●参加者／町議会議員 10人

基本目標Ⅰ みんなでまちをつくる

相互扶助の考え方

【議員】基本目標に対する取組に関連し、有島武郎の「相互扶助」思想の継承とは具体的に何を指しているのか。継承という点、いかにも「相互扶助」を理解したものと誤解しかねない。その思想がどのようなものなのか、具体的内容を突き詰めて考えていただきたい。

【議員】有島作品に親しむ、農場開放について学ぶなども必要だと思う。

基本目標Ⅱ みんなで助け合い、未来につなぐ

英語教育と学校教育の差別化

【議員】英語教育の推進について違和感がある。学校教育の延長として捉えられないかと懸念している。

基本目標Ⅴ ニセコの自然環境を守る

【議員】基本目標の文言を「ニセコの自然を守る」に変更することについて、果たしてそれで良いのか。ある程度の開発は町が生き延びるために必要ではないかと考えている。

【議員】行政の表現（言葉）として問題ないのかは気になる。行政として検証が必要ではないか。

全体

【議員】総合計画の前提としての現状認識や課題は押さえるべき。内容としては人口動態、産業人口、開発状況など経年で変化を追い、客観的なデータでおさえる必要がある。本文に入れ込むのが難しいのであれば、別資料として追加でもよい。

【議員】この総合計画は国からの要望で作成するのか、または町独自の策定なのか。計画期間が12年は長いと感じる。例えば6年や3年の期間が適切ではないか。

【議員】ニセコ町の計画の数はまだまだ多い。行政が使っている人件費が北海道でもワーストだと認識している。関連条例が多岐にわたっているのが原因かと思う。考え直す必要があるのではないか。

【議員】RESUS（地域経済分析システム）を確認したところ、今後65歳以上の人口増加が40.2%へ増加、というデータもある。今後の担い手への投資がなければ町の労働力が回らないという話はある。「相互扶助」の精神も、例えば「後志エリアで高齢者を一番若者が助けるまち」とすればシンプルにやるべきことが明確になる。基本理念に関連し、町が一番大きな課題に目を向ける必要があるのではないか。参考としてお伝えしたい。